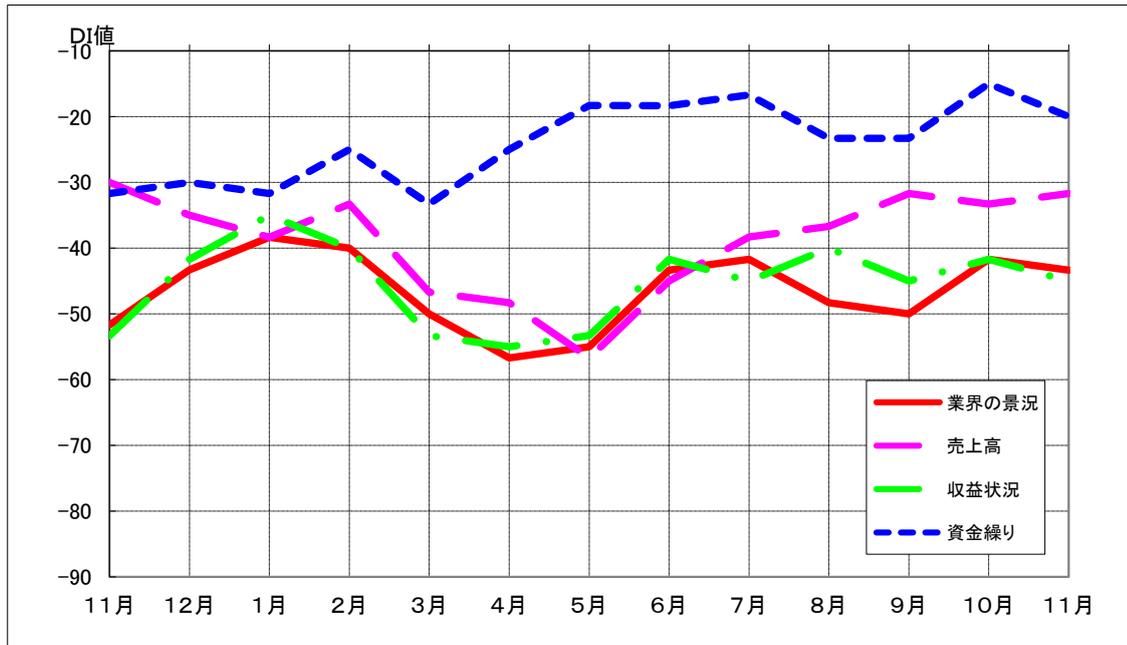


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成22年11月～平成23年11月

(にいがた中小企業情報掲載用)

単位:ポイント



	H22		H23										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
業界の景況	-51.7	-43.3	-38.3	-40.0	-50.0	-56.7	-55.0	-43.3	-41.7	-48.3	-50.0	-41.7	-43.3
売上高	-30.0	-35.0	-38.3	-33.3	-46.7	-48.3	-56.7	-45.0	-38.3	-36.7	-31.7	-33.3	-31.7
収益状況	-53.3	-41.7	-35.0	-40.0	-53.3	-55.0	-53.3	-41.7	-45.0	-40.0	-45.0	-41.7	-45.0
資金繰り	-31.7	-30.0	-31.7	-25.0	-33.3	-25.0	-18.3	-18.3	-16.7	-23.3	-23.3	-15.0	-20.0

○11月のDI値は前年同月に比べ、1項目で悪化し、3項目で改善した。「売上高」DI値は1.7ポイント悪化し、「業界の景況」DI値は8.4ポイント、「収益状況」DI値は8.3ポイント、「資金繰り」DI値は11.7ポイント改善した。前月比でみると「売上高」DI値は1.6ポイント改善したが、「業界の景況」DI値は1.6ポイント、「収益状況」DI値は3.3ポイント、「資金繰り」DI値は5ポイントそれぞれ悪化した。製造業においては原材料費の上昇や受注の減少、非製造業では売上高の減少が根強く残っており、収益状況を圧迫している。東日本大震災の影響に加え、円高やタイの洪水、欧州の金融危機といった懸念材料によって組合を取りまく環境は依然として厳しく、先行きの不透明感が隠せない状況となっている。

○組合の特記事項からは、ハウスメーカー製造業では国内向け受注は依然として盛り上がりや欠いており、また冬場の節電対応が不透明のため今後の課題であるという声が、機械器具製造業では円高と欧州の金融危機、中国での金融引き締めにより輸出が厳しい状況であるとの声が出ている。商店街では飲食関係で個人・法人客の動きが鈍く、客数・客単価ともに減少傾向に歯止めがかからない状態が続いているとの声がある。また、行政庁・中央会に対する要望事項として、LED照明や節電対策への支援を望む声があった。